



## 秋葉大権現社（秋葉神社）の歴史と信仰（下）

前号では秋葉大権現社（以下同社と呼ぶ。）の歴史と信仰につき、同社の「縁起」（「千葉社記」・「秋葉・稲荷両社由来書」）の記載内容より創建の由緒とその信仰について紹介致しました。

同社に残された文書群（「秋葉神社文書」）からは、同社と将軍家・大奥、諸大名、公家等との関わりが窺われます。これらのうち本号では、同社と水戸徳川家・大奥との関係について見て参ります。

### 秋葉大権現社と水戸徳川家

同社に近い本所小梅町（現向島一丁目）に、常陸水戸藩（徳川家）の下屋敷がありました。「縁起」からは、この水戸徳川家と同社とが深い関係にあったことが分かります。以下、「縁起」に記載された内容をまとめていきます。

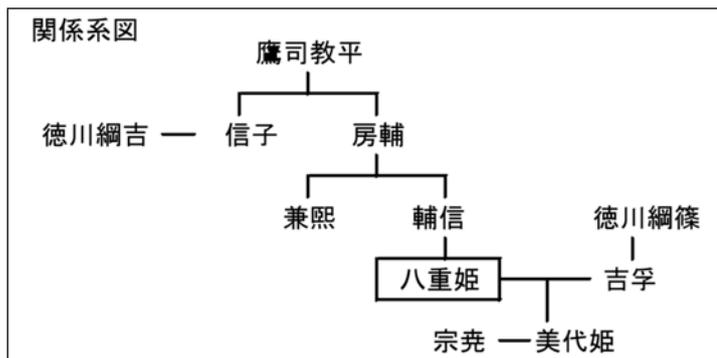
・千葉葉栄は、水戸徳川家家臣中山備前守、伊藤勘解由、嶋村主計の取り持ちによって、水戸宰相（徳川綱篠）及び中将（徳川吉孚）に謁見した。

・綱篠が重病となった際、祈禱を

### 命ぜられ、その効果があったことから同社はますます信仰を得て、末姫である八重姫（徳川吉孚正室。養仙院、後に随性院。徳川綱吉養女。）より金二百両の寄進を受けた。

・宝永五年（一七〇八）二月一日、八重姫が懐妊した際に千葉葉栄は、安産の祈禱を命じられ、八重姫は無事に美代姫を出産した。

以上のように「縁起」では、千葉葉栄と水戸徳川家との深い繋がりが記されています。このことは、同社の中興をめぐることは同家の援助によるものが大なるものであったことを示しています。



なお八重姫は、元禄二年（一六八九）、茶人として有名な鷹司輔信の娘として誕生し、初めに伯父の関白鷹司兼熙の養女、次いで元禄十年（一六九七）には、五代将軍徳川綱吉の養女となり、同年、水戸藩二代藩主徳川綱篠の嫡子吉孚の正室となりました。

吉孚は早世したため藩主となることができなかつたため、水戸藩の支藩高松藩より宗堯が綱篠の養嗣子となり、八重姫を母とする美代姫が正室となりました。八重姫は、父輔信・養父兼熙の叔母にあたり、徳川綱吉正室であった鷹司信子の養女という関係から、綱吉・信子没後も、歴代将軍（六代家宣、七代家継、八代吉宗）との関係も親密でした。

### 秋葉大権現社と将軍家・大奥

「縁起」では、同社と大奥との関係が述べられています。この点を「縁起」に見ていきます。

・徒目付北条平七の妹である「おなお」と女中「のと」が桂昌院

（綱吉生母）に奉公することとなった。

・同社の利益は、年寄尾上、右衛門佐、須山らの信仰を得て、常憲院（徳川綱吉）とその御台所（鷹司信子）にもその評判が伝わった。

・こうした中で、八重姫が入奥する際に祈禱を行い、「悪魔祓之御守等」を差し上げた。

これらの記載内容からは、「おなお・のと」↓大奥女中↓将軍御台所、というルートを通じて秋葉大権現社の信仰が受容されていたことが確認されます。

以上に見てきましたように、信仰を介した同社と水戸徳川家との親密な結びつきにより、同社の信仰が将軍家・大奥に受容されました。このように「秋葉神社文書」は、大奥の信仰について考える際に重要な史料と言えます。

（墨田区文化財調査員

大関 直人）



狛犬

# 狛犬の由来

## “すみだで逢える狛犬たち”



②三囲神社の石造神狐



①三囲神社の石造狛犬

三囲神社(向島2-5-17)の鳥居をくぐると、たくましい体格の狛犬が参道の左右に一对、阿吽の姿で控えています【写真①】。台座には、「延享二年乙丑歳(1745)五月廿二日」と刻まれています。おもしろいことに台座には、この狛犬の奉納者121名の姓が刻まれています。これほど多くの人々が関わる例は、他にあまりみられません。台座銘を調

べると、そこにさまざまな歴史が秘められていることがわかります。

ここは稲荷社であるだけに、この一对の狛犬の他にも、阿吽の形をとった石造神狐が一对、美しい姿を見えています【写真②】。享和

2年(1802)に三井家向店が奉納したもので、社殿近くに安置されています。

さらに、狛犬のそばにはライオン像も置かれています。かつて、三越池袋店の店頭に置かれていたもので、平成21年(2009)に、奉納されました。三囲神社と三井家の深いつながりが伺えます。

区内現存最古の狛犬は、牛嶋神社(向島1-4-5)にあります【写真③】。享保14年(1729)銘で、台座の裏面に奉納者(氏子)の名前が刻まれています。

さて、ここで、狛犬の由来を探るため、「墨田区文化財報告書Ⅲ」(平成10年3月 墨田区教育委員会発行)の狛犬の項から少し引用してみましよう。

『狛犬の狛は大陸の地名で「猫」の字が正しいという説もあり、また高麗犬・胡麻犬とも書くが、一般的には狛犬であらわされる。形



③牛嶋神社の石造狛犬

式は「獅子狛犬」というように、獅子と狛犬とが向かい合い一对をなすのが通例で、左右同形のものもあり、猪の姿もあり(京都・護国神社)猿を置くものもあり(東京・日枝神社)牛を置くものもある(墨田区・牛嶋神社)。

たしかに区内では牛嶋神社に神牛が【写真④】、隅田川神社(堤通2-17-1)には石造の霊亀が安置されています。これらは三囲神社の神狐と同様、祀られている神の使いとされる動物が、狛犬の代わりとされたものです。

また、同報告書には次のようにもあります。

『(中略)日本の文献によれば、平安末期ごろ宮殿の魔よけの意味で清涼殿の御帳台の帳や、御



④牛嶋神社の石造神牛

簾のすそを押さえる重し(鎮子)や扉の押さえに用いられたことが記録され、後に神仏習合とともに専ら神社に使用されるようになった。(中略)いずれにしても獅子は雄であり陽を意味し天を表わし、狛犬は雌であり陰を意味し地を表わす説があり、この左右一对は、「正を守り、邪を防ぎ、神社守護の標示である」とされている。』なるほど、何気なく見過ごしていた狛犬にも、さまざまな意味があるものですね。

区内には、多くの神社、稲荷社がありますが、それぞれに歴史をもった狛犬や神狐の像が置かれています。一度、訪れてごらんになってはいかがでしょうか。

参考 「社会教育だより」  
(墨田区教育委員会発行)